

2024年3月29日
住友生命保険相互会社

DWS が運用するインフラデットファンドへの投資について ～欧州インフラ事業への投資を通じた気候変動問題への貢献～

住友生命保険相互会社（取締役 代表執行役社長 高田 幸徳、以下「住友生命」）は、DWS Alternatives Global Limited が運用する、欧州インフラ事業への投資を行うインフラデットファンド（以下「本ファンド」）へ約 330 億円の投資を決定しました。

本ファンドは、欧州各国の再生可能エネルギー、エネルギー効率化、低炭素交通網をはじめとしたインフラ事業に投資するインフラデットファンドです。本ファンドの組み入れ対象資産は、国際的な金融業界団体である LMA^{※1}の基準に合致したグリーンローン^{※2}、またはサステナビリティ・リンク・ローン^{※3}に限定されており、脱炭素化および気候変動対策をはじめとした環境課題の解決に貢献するファンドとなっています。

※1 英国のローンマーケット協会（Loan Market Association）を指します。

※2 資金用途を環境課題解決に資する事業に特定したローンを指します。

※3 ここでは、環境に関する KPI（重要業績評価指標）が設定され、その達成状況に応じて利率が変動する仕組みのローンを指します。

（本ファンドの投資対象のイメージ）

太陽光発電所



天然ガスパイプライン



環境に配慮した公共交通機関



© DWS

住友生命は、「住友生命グループ Vision2030」において、カーボンニュートラル実現に向けた絶え間ない取組みにより地球環境の改善を図ることとしています。本ファンドへの投資はその具体的な取組みの一つとなり、運用収益の向上に加え、SDGs 達成への貢献が期待されることから、実行を決定しました。

【本ファンドの概要】

ファンド名称	Edelweiss Climate Infra Debt Fund
運用会社	DWS Alternatives Global Limited
投資金額	200 百万ユーロ（約 330 億円）

住友生命は、資産運用を通じて、環境・社会へのポジティブなインパクトの創出に取り組んでおり、中長期の安定的な運用収益確保に加え、脱炭素および持続可能な社会の実現に貢献していきます。

【本ファンドを通じて貢献すると想定される主な SDGs 項目】



以上